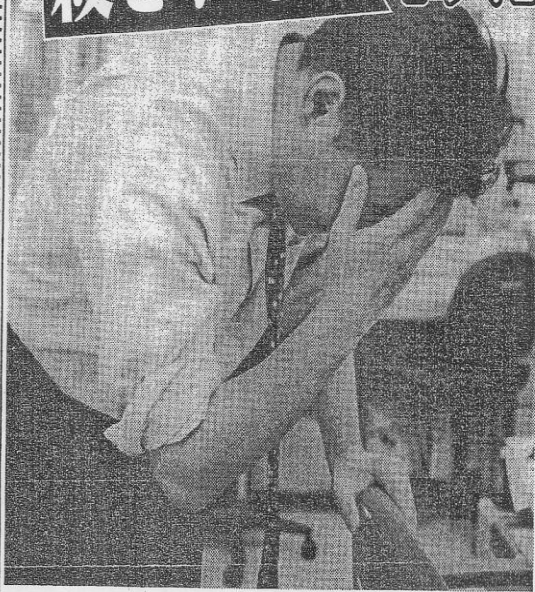


ハタすりや
殺される

誤診されやすい

急を要する病氣7



医者によって命を奪われることにもなる「誤診」が後を絶たない。用心するといってもキメ手はないのだが、「誤診されやすい急を要する病氣」くらいは最低限知っておくべきだ。誤診から我が身を守る取っ掛かりにはなる。専門医に聞いた。

胃炎

腸管虚血

Aさん(57歳)は激しう「と言われ胃薬をもらい腹痛と下痢、嘔吐を訴えて帰ったが、痛みは強えて近くのクリニックをくなる一方、救急車を呼受診した。「胃炎でしょ」んで病院の消化器内科

風邪

くも膜下出血

Bさん(44歳)は頭痛「くも膜下出血でも出血がするので近くのクリニックを受診した。「風邪でしょう」と診断されたが、帰宅途中にくも膜下出血の本格的な発作に襲われて倒れ、救急車で病院に運び込まれたが命を落とした。

身を守るために最低限知っておくべき

肋膜炎

心筋梗塞

Tさん(60歳)は体ので、Tさんはその日の晩だるさと息苦しさを訴えて帰らぬ人となった。て呼吸器内科のクリニックを受診した。胸部のレントゲンを撮った医師は、「肋膜炎」と診断をつけた。心電図をとらなかつたので分からなかつたのだが、実は心筋梗塞

疲れ

一過性脳虚血発作

Iさん(46歳)はクラツと目まいがし、一瞬右足が動きにくくなったのが気になって内科を受診した。「疲れでしょう」という医師の言葉に安心したのもつかの間、翌日本格的な脳梗塞発作を起し入院することになった。

十二指腸かいよりの穿孔

動脈瘤の切迫破裂

Fさん(58歳)はおなかと背中が激しく痛むのを疑われて緊急手術とんで病院を受診した。もところが開腹してみる

胃炎

虫垂炎

Yさん(38歳)はみぞおちが痛んで近くのクリニックを受診した。「胃炎」といわれ胃薬をもらって帰ったが、痛みは徐々に右の下腹部に移動、夜中に右下腹部の激痛に襲われ救急車を呼んで病

脳貧血

心室頻拍

Kさん(46歳)はフラツと目まいがするといつて耳鼻科を受診した。脳貧血だろうといわれたが、帰り道、トツ、トツ、トツと脈が速くなり気が遠くなってきた。「突然死を起す心室頻拍です。救急車を呼んで病院に行き、電氣的除細動を受けねばなりません」といわれて、選ん

つた橋本龍太郎元首相と同じ腸管虚血とわかり、緊急手術を受け間一髪で命拾った。「腸管虚血は初期には検査をしても特徴的な所見が出ないので、胃炎や腸炎で片付けられてしまうことも多いのです」(東京

へ。腹部の血管造影検査 都済生会中央病院・塚田を受けたら、先日亡くな 信廣内科部長)